

第28回「核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい」

メッセージ

IPPNW 日本支部代表支部長
日本医師会長、世界医師会長
アジア大洋州医師会連合（CMAAO）会長

横倉 義武

はじめに、反核医師の会の結成30周年おめでとうございます。そして、貴会が参加する ICAN（International Campaign to Abolish Nuclear Weapons）のノーベル平和賞受賞をお祝いすると共に、その直後に開催されるこの「つどい」に大きな意義を感じております。

先月、世界医師会シカゴ総会において、私は第68代世界医師会長に就任いたしました。世界医師会では、2006年に「北朝鮮による核実験に関する決議」を採択し、最近では2015年モスクワ総会において既存の「核兵器に関する声明」を再度取り上げ、この問題に対する世界の医師の意識を喚起するとともに、核兵器の開発、実験、製造、備蓄、移転、配備、威嚇および使用を強く非難し、加盟各国医師会に、核兵器の禁止と廃絶に向けて努力するよう自国の政府に働きかけることを要請しました。

本年5月、私は IPPNW 日本支部の代表支部長を仰せつかり、日本医師会長、世界医師会長、アジア大洋州医師会連合（CMAAO）会長の職責と併せ、日本はもとより、世界の医療界を視野に入れた医師としての核兵器廃絶を求める活動の強化に努めていく所存です。その一環として、本年9月、イギリスのヨークで開催された IPPNW 世界大会では、核兵器の廃絶に向けたメッセージを強く、そして広く、あらゆる場面において訴えていくことを述べました。

最近の世界情勢はますます混迷を深めており、われわれは、核兵器はもとより生物・化学兵器等の大量破壊兵器への脅威など厭うべき現実と直面しております。世界医師会の「ジュネーブ宣言」にも明示されているように、こうした情勢の中で、医療専門職として、われわれは世界の人々の健康を維持し、その向上に努めることを使命としております。核兵器による悲劇は人類の歴史に二度と刻まれてはいけない事実であり、その事実を医師の立場から世界に発信し続ける義務があります。

世界で唯一の被爆国として、わが国は核兵器の非人道性や被ばくにより苦難を背負った人々の苦しみを世界に訴えてまいりました。その積極的な活動主体として、反核医師の会や IPPNW 日本支部の方々を中心とした長年の献身的なご努力に心から敬意を表したいと思えます。

本つどいの参加者の皆様の熱意と努力に改めて敬意を表するとともに、この会議が、内外での活動実績の上に立って、世界の核実験・核兵器廃絶の動きを大きく後押しする機会となるよう切に期待いたします。